

## マタイ 13 章 10-23 節

### 「たとえで語るキリスト」

10節から 17 節までは、なぜ主イエスがたとえをお語りになるのか、という弟子たちの問いに対する、主イエスご自身の答えが語られています。11節で主イエスは弟子たちに対して「あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されている」と語りました。そして、14節ではイザヤ書 6 章 9 節の言葉が引用されています。この言葉は、預言者イザヤが神によって立てられた時、イザヤの召命の箇所です。しかしイザヤが遣わされて預言をすることによって、かえって人々が理解せず、その言葉を受け入れず、悔い改めようとしない、そのようなことが起るだろうと神さまはイザヤに伝えました。そして今、主イエスのたとえ話によっても同じことが起るということです。つまり、それを聞く人々が、「見ても見ず、聞いても聞かず、理解できない」と。たとえ話はそういう働きをする、と主イエスは言っているのです。そして、18節から主イエスは「種を蒔く人のたとえ」の説明を語られます。「だから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。」と。これらのたとえ話は弟子たちに対して語られています。天の国の秘密を悟ることが許されているのは弟子たちだけです。だからこそ弟子たちに対して、この譬えの解き明かしがなされるのです。

「種を蒔く人」のたとえは、私たちにも当てはまるのではないのでしょうか。道端に落ちた種も、石だらけの地に落ちた種も、茨の間に落ちた種も、みんなそれぞれに自分のことだと思います。そして、自分は少なくともこれではないと思うのが、「良い土地」です。それは私たちの目指すべき理想の姿だけれども、しかし現実にはそうはなっていない、これだけは自分の姿ではない、と私たちは思います。けれども実は、私たちがこのたとえ話を読んでそのように感じるということこそが、主イエスがここで言うておられる「見ても見ず、聞いても聞かず、理解できない」ということなのです。このたとえ話は、どれが自分の姿であるか振り返ってみなさい、ということではありません。11節「あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されているが」とあります。これは、あなたがたは御言葉を聞いて理解することができるということです。あなたがたは御言葉を聞いて悟り、理解し、良い土地として実を結ぶことができている、本当によかった、と主イエスは 16, 17 節で祝福しておられるのです。それが、この話で主イエスが語ろうとしておられることです。

主イエスはこのたとえ話で「あなたがたは良い地である」と言うておられるのです。その「あなたがた」は、弟子たちのことです。弟子たち、それは主イエスに招かれ、従っている人たちです。主イエスの近くで主の御言葉を聞いている人々です。この「種を蒔く人のたとえ」は、主イエスの弟子だけでなく、私たち信仰者にも語り掛けているのです。神さまは御言葉の種を、どんな土地に対しても蒔いて下さっています。それは神さまが、私たちを、何とかして、御言葉の種が育ち実を結ぶ良い土地にしようと愛を傾けて下さるということです。私たちは全く良い土地ではなく、道端に過ぎなかつたような者です。むしろ神に背く、罪人であります。そのような私たちを神さまが愛して下さり、御言葉を悟ることが出来る良い土地として下さいました。独り子の命をも与えて下さる大いなる祝福に耳を傾けて、目を開き、主と共に歩んでいきたいと願います。